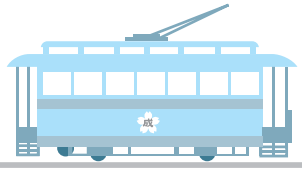
広報 なりた
市民を大切にする市政



成田歴史玉手箱

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

千葉県で最初に走った電車

ちんちん電車の愛称で、成田山と宗吾霊堂を結ぶ

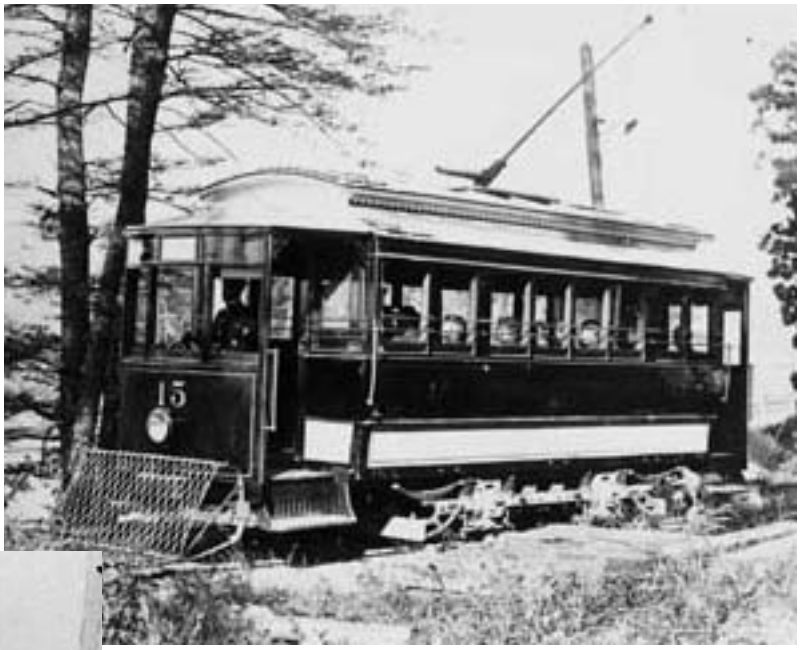
成田に初めて鉄道が敷かれたのは、成田鉄道（現在のJR）が佐倉―成田間を開通させた明治30年のことでした。4年後には我孫子―成田間が開通し、東京からは2つのルートで成田へ乗り入れが可能となり、駅前から門前の旅館・土産物屋は大変なにぎわいを見せました。そこで、年々増加する乗客をさらに新勝寺や宗吾霊堂まで一気に輸送しようとする計画が持ち上がり、明治41年に成宗電気軌道株式会社が創立されました。

しかし駅前から参道の旅館・土産物屋、人力車夫たちは、参拝客を奪われると猛反対。一方新勝寺に近い田町や本町の人々は賛成に回り、建設運動は町内を二分する騒ぎへと発展しました。その後参道を通過する路線計画は変更され、参道の裏側をう回する路線で建設工事が行われ、明治43年12月に門前―成田駅前間、44年1月には成田駅前―宗吾間が全線複線で開通しました。これは大正3年京成電気軌道（現在の京成電鉄）が千葉県に路線を延ばした4年前にあたり、県内初の電車誕生となりました。開業当時の車両は15両、停留所（駅）は、成田山門前―幼稚園下―成田駅前―論田―新田―大袋―宗吾の7つで、のちに京成電車前と宗吾霊堂裏が新設されました。

開業後の経営は順調とはいえず、第一次世界大戦による鉄材の高騰に着目し営業廃止を図るも、政府の許可が得られず、大正7年成田駅前―宗吾間を単線化。9両の電車は函館水電（現在の函館市交通局）と阪神急行電鉄（現在の阪急電鉄）に売却されました。そして、太平洋戦争末期になると資材転用目的で政府から強制的に廃止を命ぜられ、昭和19年12月11日にその歴史を閉じました。

函館水電へ売却された5両のうち1両が、平成5年成宗電車当時の姿に復元され、「箱館ハイカラ号」の名で現在も運転されています。また、開業当時の台車が兵庫県の宝塚ファミリーランド内に保存展示されています。

権現山付近（花崎町）を走る成宗電車。運転席はドアがないオープンデッキで、冬場はとても寒かったという（市立図書館所蔵、今井正治氏寄贈）



宗吾停車場と成宗電車。大正7年に単線化されるので、それ以前に撮影されたもの（絵葉書市立図書館所蔵）

「電車道」の愛称で呼ばれる道路（旧線路跡）には、当時をしのばせるレンガ造りのトンネルが2つ残っている

編集後記

毎朝6時に愛犬「タロウ」と散歩に出掛けます。実はこの季節はちょっとつらいのですが、毎朝の習慣になっているためタロウが休むことを許してくれません。歩き始めて10分もすると体が温まり足取りも軽くなってきます。約30分のコースを終えるころにはほんのりと汗ばんで、気分もそう快に。運動を続けたことで、血中の中性脂肪やコレステロールの数値も下がりいいことづくめのようです。でも、目覚まし時計が鳴る瞬間「あと30分寝ていられたらどんなに幸せか…」と布団の中で怠け心との格闘が。タロウの鳴き声にせかされ、きょうも眠い目をこすりながら散歩は続きます。

広報なりたは再生紙を使用しています。